

フィットネス雑誌における覇権的男性性の変容

—『Tarzan』を中心に—

玉木 敦之

本研究は、フィットネス雑誌『Tarzan』の創刊から現在に至るまでの男性身体の理想像を研究するものである。

これまで蓄積されてきた日本の男性学・男性性研究では、頭髪の薄い男性が従属的男性性として位置付けられる男性内部の支配関係(須長, 1999)や「包茎」を恥とする価値観の歴史的変遷を追うことを通じて、包茎男性が従属的男性性として位置付けられる過程(澁谷, 2021)など男性性の支配関係を明らかにしてきた。しかしながら、これらの先行研究では、男性間の支配構造において、覇権的または従属的男性性が強化される過程については一定の蓄積がある一方、これらの男性性が移り変わる過程については明らかにされていない。

このような問題意識に則り、本研究の目的は、フィットネス雑誌『Tarzan』に描かれる男性身体の理想像の変遷を分析することを通じて、覇権的男性性が移り変わる過程の一端を探ることである。

第一章では、コンネルの男性性理論を紹介した。そして、日本の男性学・男性性研究の潮流を概観した上で、本研究の論点を明確にした。上記に述べたように、本研究の論点は、覇権的男性性が移り変わる過程に焦点を当て、いかにある特定の男性性が覇権的なものとして構築されていくのか明らかにすることである。

第二章では、分析対象として扱う男性身体の定義を明確にし、男性身体に関する先行研究を整理した。本研究における男性身体とは、社会的に構築されるという構築主義的立場をとり、男性性の権力関係を象徴するものであると定義した。また、これまで蓄積されてきた男性身体に関する先行研究は、個人の経験に焦点を当てた研究に傾倒しており、本研究が扱う歴史的展開に焦点を当てた研究は蓄積が浅いとことを指摘した。

第三章では、本研究の分析概要と手法を示した。本研究では、フィットネス雑誌『Tarzan』の創刊当初の1986年4月から現在の2023年12月に至るまで合計869冊を分析対象とした。そのうち、目次に「カラダ」「体」「身体」「体型」「肉体」「裸」「ボディ」「身」というワードが入っている特集記事を

選別し、合計 212 冊を分析した。なお、本研究では、男性身体の理想像の描かれ方に着目するものであり、女性身体に関する記事内容は対象外とした。

第四章では、フィットネス雑誌『Tarzan』における男性身体の理想像の歴史の変遷の過程と背景を記述した。『Tarzan』における男性身体の理想像は、1990 年代では、強く逞しい「逆三角体型」であり、その後 2000 年代では、無駄な筋肉と無駄な脂肪を排除した「細マッチョ」へと移り変わり、2010 年代から現在にかけて、強く逞しい身体に再び移り変わりつつあるという歴史の変遷を迎えることが明らかになった。

第五章では、第一章にて紹介したコンネルの男性性理論に基づき、男性身体の理想像の変遷について整理し、いかに男性身体の理想像が移り変わるのかについて検討した。なかでも、2000 年代にグラデーションをもって強く逞しい身体からスリムな身体への移り変わる転換期に焦点を当てた。その結果、(1)批判の文脈、(2)肯定の文脈、(3)健康の文脈の三つの文脈を通じて男性身体 of 理想像が移り変わることが明らかになった。具体的には、批判の文脈では、2000 年代の覇権的男性性に該当するスリムに痩せている身体が、強く逞しい男性身体を「覇権的」ではない外部として構築することを通じて、「覇権的」なものとして成立するのである。次に、肯定の文脈では、女性がスリムな身体 of 男性を称賛し、自ら進んで従属的な位置へ向かおうとすることにより、スリムな男性身体が「覇権的」であることが強化されるのだ。また、この「スリムに痩せている男性身体は女性にモテる」という概念は、「フィクションとしての女性の声」を通じて、その男性身体が「覇権的」であるために形成されたのであると指摘した。最後に、健康の文脈において、体脂肪がメタボリックシンドロームなどの生活習慣病を引き起こすため、スリムな男性身体を推奨する健康の文脈の背景には、当時の日本社会が一貫して、健康寿命の延伸、医療費の抑制を目指して制度的な枠組みを段階的に整備してきたという社会経済的背景があると指摘した。

したがって、2000 年代という時代や社会情勢に適合的な覇権的男性性としてスリムな男性身体が現出すると同時に、それと相補的な女性の肯定および男性間の支配関係を通じて、強く逞しい身体からスリムな身体へ覇権的男性性が移り変わったと結論付けた。

参考文献

澁谷知美, 2021, 『日本の包茎』, 筑摩書房.

須長史生, 1999, 『ハゲを生きる—外見と男らしさの社会学—』, 勁草書房.

Connell, R. W., 1987, *Gender and Power: Society, the person and Sexual Politics*, UK: Polity Press. (=1993, 森重雄・菊地栄治・加藤隆雄・越智康詞訳, 『ジェンダーと権力—セクシュアリティの社会学』, 三交社.)

Connell, R. W., 1995, *Masculinities*, UK: Polity Press. (=2022, 伊藤公雄訳, 『マスキュリニ

ティーズー男性性の社会科学』新曜社.)